

中部病院が移転する場合の候補地の検討について

移転候補地検討の視点・評価基準①

南海トラフ巨大地震等の災害への対応として、中部病院移転に向けた候補地の検討を実施。一定程度の面積を有する遊休地を市内4か所に絞り込み、さらに後述の評価項目をもとに評価を行った。



①現中部病院(14,751m²)

日南市大堂津5丁目10番1号

②南郷福祉センター前(10,841m²)

日南市南郷町中村乙7051番97号外

③県立日南病院隣接地(9,183m²)

日南市木山1丁目10番地1号

④旧楠原ゴルフ場用地(35,416m²)

日南市大字楠原1604番外

移転候補地検討の視点・評価基準②

評価にあたっては、次の5つの項目を評価基準とする。

■ 評価項目(5つの観点)

ア	災害・危機管理	南海トラフ地震に伴う津波浸水想定 等
イ	県立日南病院との医療連携	距離・所要時間、連携による医療機能の維持・向上 等
ウ	敷地・立地条件	面積、用途地域、所有者、地形・造成の可否 等
エ	費用・経済性	解体費用、造成費用 等
オ	交通アクセス利便性	最寄駅・幹線道路までの距離、公共交通の有無 等

■ 検討の進め方

まず、「ア 災害・危機管理」の評価項目で一次選別を実施(津波浸水リスクが高い候補地を除外)し、次に、残存候補地について、残りの4項目を含めて総合評価した。

候補地① 現中部病院(建替)

一次選別で除外



津波浸水想定(出所:日南市WEBハザードマップより)

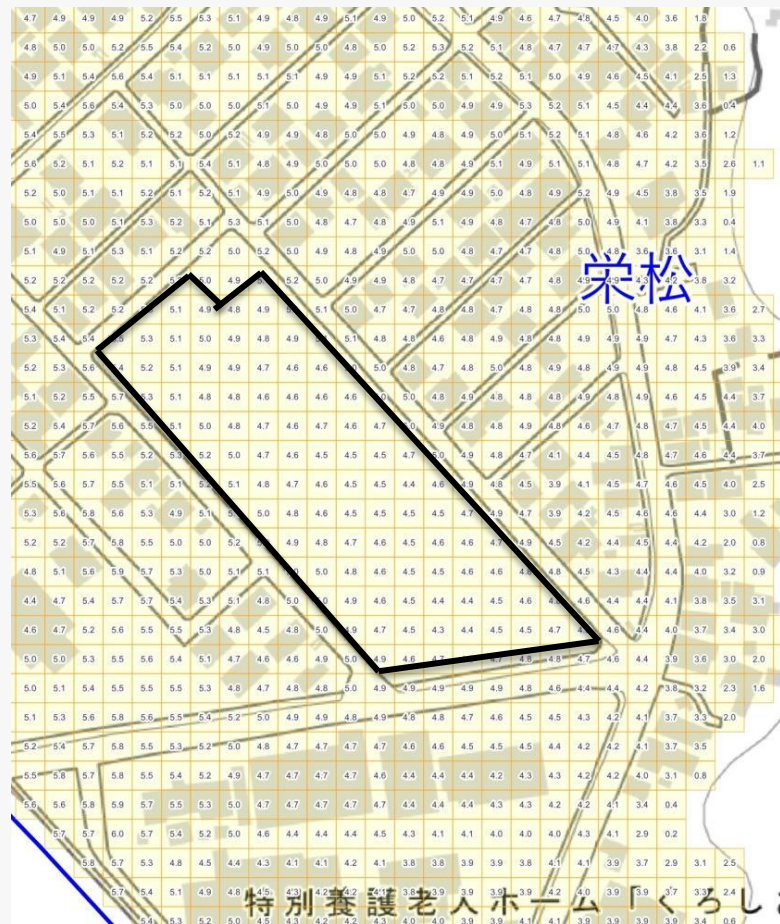
- **所在地:**日南市大堂津5丁目10番1号
- **敷地面積:** 14,751m²(現況:病院)
- **津波浸水想定:** 6～8 m
- **評価:**周辺の幹線道路も浸水する想定。浸水想定より高い大規模な造成をした場合でも、周辺の浸水により、電気・水道・道路等の生活インフラが寸断されるリスクが大きく、医療継続性に多大な影響を及ぼす可能性が高い。



**災害・危機管理の観点から不適格と判断し、
検討対象から除外。**

候補地② 南郷福祉センター前

一次選別で除外



- ・ **所在地:**日南市南郷町中村乙7051番97号外
- ・ **敷地面積:**10,841㎡(現況:未利用地)
- ・ **津波浸水想定:**4 ~ 6 m
- ・ **評価:**浸水想定は候補地①ほどではないものの、
浸水リスクが高い。候補地①と同様の理由から、
医療継続性に多大な影響を及ぼす可能性が高い。

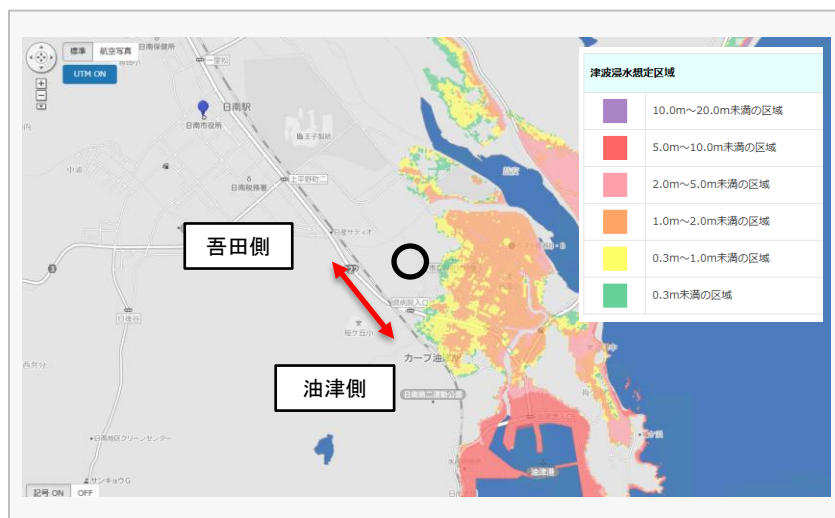


**災害・危機管理の観点から不適格と判断し、
検討対象から除外。**

津波浸水想定(出所:日南市WEBハザードマップより)



土砂災害特別警戒区域(出所:日南市WEBハザードマップより)



津波浸水想定区域(出所:日南市WEBハザードマップより)

- ・ **所在地:** 日南市木山1丁目10番地1号
- ・ **敷地面積:** 9,183㎡(公社所有地、既存建物なし)

ア 災害・危機管理:

- 津波浸水想定0mでリスクは低い。
- 津波浸水発生時も油津側に浸水はあるが、吾田側の幹線道路へのアクセスが可能。
- △ 一部が土砂災害警戒区域となっている。

イ 医療連携:

- 県立日南病院に隣接し、地理的近接性を活かした医療連携が極めて容易。

ウ 敷地条件:

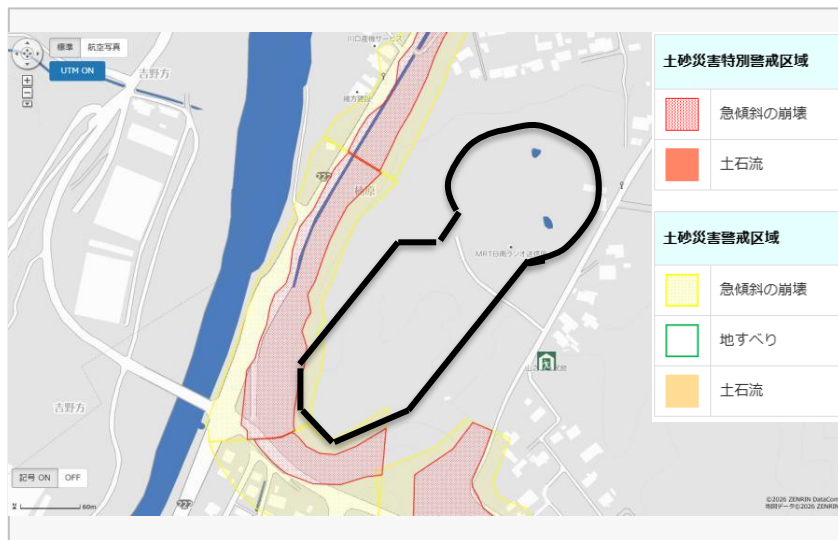
- 平坦地であり、大規模な造成は不要と見込まれる。
- 立地適正化計画上の都市機能誘導区域、居住誘導区域

エ 費用:

- 解体・造成費用が不要で初期費用を抑制可能。
※公社所有地のため土地取得費用(約2億5千万円)が必要。
- 県立日南病院との施設等の共同利用ができれば、建物延床面積及び建設費用の抑制も見込まれる。

オ 交通アクセス:

- 最寄駅(JR油津駅)から1km・車5分・徒歩10分
- バス停あり(宮崎交通)。
- (仮)油津IC建設中。
- 市内各地からのアクセス



土砂災害特別警戒区域(出所:日南市WEBハザードマップ)

- ・ **所在地:** 日南市大字楠原1604番外
- ・ **敷地面積:** 35,416㎡(現況:通信基地・雑種地)

ア 災害・危機管理:

- 津波浸水想定0mでリスクは低い。
- × 周辺道路が土砂災害特別警戒区域で、急斜面の崩壊の懸念、かつアクセス路の遮断リスクあり。

イ 医療連携:

- △ 地理的距離・交通条件から、他の候補地と比較して、県立日南病院との連携の点で不利。

ウ 敷地条件:

- × ゴルフ場跡地のため大部分が傾斜地で、大規模な造成工事が必要。
- △ ラジオ局に関連する鉄塔があり、一部利用が困難
- × 立地適正化計画上の誘導区域ではない。

エ 費用:

- × 大規模造成により多額の費用が見込まれる。

オ 交通アクセス:

- × 最寄駅(JR飫肥駅)から2.5km、徒歩30分以上。
- △ コミュニティバスのバス停あり(1日3往復程度)
- △ 県立日南病院まで8km・車14分。
- △ 一部離合のしづらい道路があり、救急搬送や市民の利便性を考えると、道路整備の必要性があり。
- 市内各地からのアクセス

移転候補地の評価比較表

		①現中部病院	②南郷福祉センター前	③県立日南病院隣接地	④旧楠原ゴルフ場用地
ア 災害・ 危機管理	津波浸水想定	×	×	○	○
	その他災害リスク	○	○	△	×
	災害時の アクセス路確保	×	×	○	×
イ 医療連携	県立日南病院との 医療連携			○	△
ウ 敷地・ 立地条件	地形・造成の 要否等			○	×
	立地適正化計画上の誘導区域			○	×
エ 費用・経済性	地形・造成等の 費用			○	×
オ 交通アクセス 利便性	救急搬送（消防本部）の到達 性			○	△
	幹線道路 ・市街地からのアクセス			○	×
	公共交通（ＪＲ・バス）			○	△
	市内各地からのアクセス			○	○
備考				現況：未利用地 ※緊急ヘリポートとして指定 されている 県立日南病院の建物・設備 の共同利用ができれば事業 費圧縮の可能性ある。	現況：未利用地 通信基地・雑種地 鉄塔が建っており、一部土地 が利用できない。

まとめ:③県立日南病院隣接地が最適である理由

ア 災害・危機管理:

南海トラフ地震に伴う津波浸水想定が0mであり、さらに主要幹線道路へのアクセスが可能であるため、災害時における医療継続性が高い。

イ 県立日南病院との医療連携:

隣接地に位置することで、効率的な医療連携が期待できる。「日南市内の公立病院の医療連携等に係る基本協定」に基づき、診療機能の分担・連携等、切れ目のない医療連携を実現できる。

ウ 敷地・立地条件:

公社所有地であるため取得費用が発生するが、土地取得の容易性に加え、既存建物がなく平坦であることから解体費用や大規模な造成費用が不要であり、初期費用を抑制できる。

エ 費用・経済性:

既存の県立日南病院との施設共同利用ができれば、新設建物の規模を抑えることが可能であり、建設費用の削減を見込むことができる。また、医療機械の共同利用等による経費削減のメリットも期待できる。

オ 交通アクセス利便性:

県立日南病院の隣接地は、市内各所からのアクセス、公共交通機関、主要幹線道路への接続が良好であり、救急搬送の迅速性も確保される。他の候補地に比べ敷地面積が狭いことから、駐車場確保の課題はあるものの、立体駐車場等の設置により解決できると考えられる。

以上の総合的な評価から、③県立日南病院隣接地が、将来にわたる高度で良質な医療の安定的な提供にとって、最適な移転候補地であると考える。

移転候補地検討 | 2病院が隣接することのメリット

想定される連携案

連携内容（案）	具体的なイメージ	隣接した場合のメリット
診療連携	○紹介・逆紹介の円滑化、地域連携パスの共同運用、退院支援・在宅移行の連携、合同カンファレンスの実施	転院に係る負担軽減
救急運用	○救急搬送受入時のトリアージからの患者受け渡し連携、救急応需後の下り搬送・受入ルールの明確化	搬送時間の短縮
共同利用	○CT・MRI・血管造影装置等の高額医療機器の共同利用 ○県立日南病院の未利用フロアの共同利活用	施設・設備の共同利用による経費削減
共同発注	○給食、清掃、寝具、医療廃棄物処理、警備、医療機器保守等の共同発注 ○医薬品や診療材料の共同購入	給食や清掃等2病院で一体として対応することで、経費削減が見込める
人的資源のカバー	○医師の相互応援・派遣、当直体制の補完 ○合同研修・教育プログラムの実施、人事交流	より緊密な連携による医療体制の充実
災害時の一体運営	○合同防災計画の策定、災害時の役割分担 ○合同防災訓練の実施、備蓄の相互融通、BCPの整合 ○看護師・薬剤師・技師等の兼務や応援	相互支援の即応性が高くなる
運営・ガバナンス	○両院の経営方針・投資計画の調整、医療機能・病床機能の分担方針の決定 ○共通の経営指標によるモニタリング	より明確な役割分担が可能